

農推第3315号
令和8年1月21日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第4号

病害虫名：トマト黄化病

病原名：トマト退緑ウイルス (Tomato chlorosis virus : ToCV (*Crinivirus tomatichlorosis*))

1 発生作物 ミニトマト、トマト

2 発生地域 泉州地域

3 発見の経緯

- (1) 令和7年11月上旬、泉州地域のミニトマト施設栽培ほ場において、葉に退緑及び黄化症状を示す株が認められた（図1、2）。なお、当該ほ場では数株トマトも栽培しており、同様の症状を示す株が認められた（図3）
- (2) ToCVによるウイルス病が疑われたため、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所において RT-PCR 法による検定を行ったところ、ToCVを検出した。そこで、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、RT-PCR 法により、令和8年1月に ToCV の感染が確認された。
- (3) 府内では本ウイルスによる病害が確認されたのは今回が初めてである。

4 病原ウイルスの特徴

- (1) 本病は、平成20年に栃木県で国内初の発生が報告されて以来、全国各地で発生が確認され、現在では28都府県で発生が確認されている。近畿では滋賀県、兵庫県、京都府での発生が確認されている。

(2) 痘徴（被害）

本ウイルスに感染した葉は、葉脈間が退緑し黄斑を示す。その後症状が進展すると葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、葉巻症状やえそ症状が現れる。痘徴は下位～中位葉に現れやすく、生理障害である苦土（マグネシウム）欠乏症と類似しており、判別は極めて難しい。果実への症状は見られないものの、生育が抑制され収量が減少することがある。

キンセンカやトルコギキョウなどの花き類、シunjingikなどの野菜類、ホトケノザなどの雑草にも感染することが報告されている。

(3) 伝染方法

本ウイルスは、タバココナジラミ（図4、5）及びオンシツコナジラミ（図6、7）によって媒介される。伝搬様式は半永続伝搬（ウイルスを獲得したコナジラミ類は、数時間から数日間媒介能を有する）で、経卵伝染はしない。また、栽培環境下では、汁液伝染、土壤伝染、種子伝染はしないとされている。

5 防除方法

- (1) 本病に適用のある農薬はないため、ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底する。
 - ・苗からコナジラミ類を持ち込まないよう注意する。
 - ・施設栽培では、施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、施設内へのコナジラミ類

の侵入を防ぐ。

- ・施設内および場周辺の雑草はコナジラミ類の発生源となるので、除草を徹底する。
 - ・定植時等に粒剤やかん注剤を施用する。
 - ・コナジラミ類の発生が確認された場合は薬剤防除を実施する。
 - ・コナジラミ類の薬剤感受性の低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。
 - ・施設栽培では、コナジラミ類を周辺に分散させないため、栽培終了後にすべての株を地際から切断または抜根し、除草を行った後に、施設を密閉してコナジラミ類を死滅させる。
- (2) 発病株は抜き取り、ポリ袋等に密閉して場外に持ち出して処分するか、土中深くに埋め込む等適切に処分する。

◎防除薬剤については、下記を確認してください。

- Web 版大阪府農作物病害虫防除指針（ミニトマト>コナジラミ類のページ等参照）
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html)
- 農林水産消費安全技術センター農薬登録情報提供システム
(<https://pesticide.maff.go.jp/>)



図1 葉脈間が黄化した被害葉（ミニトマト）



図2 発病株（ミニトマト）



図3 被害葉（トマト）



図4 タバココナジラミ成虫
(体長 1 mm 程度)



図5 タバココナジラミ幼虫
(体長 0.8~1 mm 程度)



図6 オンシツコナジラミ成虫
(体長 1 mm 程度)



図7 オンシツコナジラミ幼虫
(体長 0.8~1 mm 程度)

図6、7：大阪府植物防疫協会 提供

問い合わせ先：大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

TEL: 072-957-0520 mail : byogaichu@sbox.pref.osaka.lg.jp